

2024年度（第33期） 事業報告書

自 2024年（令和6年）4月1日
至 2025年（令和7年）3月31日

公益財団法人 北海道新聞野生生物基金

■はじめに

当基金を取り巻く経済状況は、これまでの長期にわたる超低金利時代から金利上昇の局面にあるが、米国トランプ政権の相互関税の影響は、為替・株式市場に不透明感をもたらしている。収入源である基本財産運用益もこれまでと変わらない水準にとどまっている。

寄付金は前年度よりも増えた。一般からの寄付金は前年度より 117 万円増（北海道産いきもの保全プロジェクトへの寄付 100 万円を除く）で、サポート企業会員は 3 社減・新規 1 社の 6 万円減だったが、寄付金全体では 111 万円あまりの増となった。前年比で見ると、高額寄付の件数は変わらないが、寄付件数と寄付者数がいずれも 10%程度伸びている。24 年度から導入した Web 決済の寄付では 8 人 9 万円の利用にとどまった。

公益目的事業のメインである助成事業は、一般助成、杉本とき鳥類保護助成を合わせて 7 団体・個人に総額 204 万円を助成するなど、北海道の自然と野生生物保護のための事業を展開した。収益事業では、昨今のカレンダー離れから、企業の名入れカレンダー売り上げが減少した。書店などの一般販売は、販路の拡大とオンライン販売により好調だったが、一般会計への繰入額は前年実績比 5 万円の微減となった。

◇収益事業（特別会計）

*一般販売用カレンダー事業 決算額 405 万円（予算額 440 万円）

例年通り「北海道野生生物写真コンテスト」の応募作品の中から秀作を選び、動物部門の大判吊り下げ型と植物部門の卓上型、かわいい動物写真の中綴じ吊り下げ型のカレンダーを発行した。企業の名入れカレンダー販売の減少から、年々売上は落ちている。一方の一般販売では、12 ヶ所の新規販売委託書店とお土産店や「どうしんオンラインストア」で取り扱いを開始した。これにより一般販売は前年比 119%となり、販売数低下に歯止めをかけた。企業向け売り上げと合わせた公益目的事業への繰入金では 215 万円となり、前期比 5 万円余りの減となった。

◇公益目的事業（一般会計）

【普及啓蒙事業】

*シンポジウム・フォーラム 決算額 10 万円（予算額 20 万円）

8 月に日本動物園水族館協会に加盟している道内の動物園、水族館の 9 園館（当日は悪天候により釧路市立動物園欠席）が進める「北海道産いきもの保全プロジェクト」のフォーラムを開催した。場所は、大通西 3 丁目の道新プラザ DO-BOX。支出はフォーラム出席者の交通費、出張費など。

【自然体験活動事業】

- (1) 自然・環境出前講座 決算額 7万円(予算額 20万円)
当基金の評議員を中心として、講師を道内各地の学校・団体などからの要請に応え、小中高校や地域学習の場に講師を派遣する事業。大空町・大空高校で実施した。写真コンテストの審査会と日程がかぶり、事務局からの出席なしで対応した。
- (2) 自然・環境エクスカージョン 決算額 0万円(予算額 10万円)
イベントなどの後援や事業に関する要請がなく支出はなかった。
- (3) モーリーの森づくり 決算額 0万円(予算額 15万円)
23年度に引き続き、空知管内栗山町で「モーリーの森づくりⅡ」の保育管理作業を実施予定だったが、借地期限が過ぎていた関係で実施できなかった。25年度は、実施に向けて自治体と調整している。

【コンテスト事業】

- (1) 写真コンテストと写真展 決算額 100万円(予算額 100万円)
第30回北海道野生生物写真コンテストは、道内外のアマチュア写真家166人(前年比19人減)から435点(同51点減)の応募があった。
審査で選ばれた動物部門の入賞7点、入選12点と植物部門の入賞4点、入選11点は北海道新聞紙上と基金ホームページ、11月1日～6日に富士フィルムフォトサロン札幌で展示したほか、7月発行予定の「モーリー通信4号」でも紹介する。
- (2) 夏休み自然観察記録コンクール 決算額 19万円(予算額 20万円)
第31回夏休み自然観察記録コンクール(北海道新聞野生生物基金、北海道自然保護協会、北海道新聞社主催)には、道内19小学校(前年比4校増)から58点(同26点増)の応募があった。
審査会で選ばれた入賞9点と佳作11点は10月29日～11月4日に札幌市資料館で、2025年1月5日～10日に札幌市円山動物園で展示した。金賞・銀賞は道新こども新聞「まなぶん」と「まなぶんデジタル」で紹介し、入賞・入選者は「モーリー通信4号」にも掲載する。

【出版事業】

- *自然情報誌「モーリー通信」の発行 決算額 143万円(予算額 150万円)
「モーリー通信3号」を2024年7月に発行した。特集は動物園の自然保護活動を取り上げた。他には2024年度に実施した助成事業、北海道野生生物写真コンテスト、夏休み自然観察記録コンクールなど基金の各種活動を紹介している。

【助成事業】

*助成事業 決算額 209 万円 (予算額 320 万円)

北海道の自然保護、野生生物保全に尽力している団体・個人の活動を広く応援している。2024 年度の一般助成は 6 団体・個人に 154 万円、別枠で設けている「杉本とき鳥類保護助成基金」は 1 団体に 50 万円を助成した。申請件数は前年より 3 件少ない 15 件で、大原昌宏審査委員長らによる審査会で決定した。助成対象事業の実施期間は原則 1 年で、年度末に報告書を提出してもらいホームページ (4 月に公開済み) や「モーリー通信 4 号」にも掲載する。

◇その他の事業 (一般会計)

(1)パンフレットなどの作成 決算額 12 万円 (予算額 10 万円)

社屋移転にあわせてパンフレットの刷新を行った。掲載情報を最新のものに差し替えて、QR コードも掲載、寄付のしやすさを向上させた。デザインについては、内製化を図って制作費用を抑えた。

(2) ホームページの維持・更新 決算額 37 万円 (予算額 10 万円)

懸案事項であった基金のホームページを刷新した。デザインを一新して、情報発信の頻度もあげている。寄付の呼び込みを図るため、ひと月ごとの集計をトップページに掲載、サポート企業紹介では URL やロゴの掲出も可能とした。SNS との連携機能も用意して、北海道新聞の自然や生き物に関する記事を発信、道内の団体・個人との相互発信も行い、基金認知度の向上を図る。一部内製化を図って構築費を抑えたが、予算を 27 万円超過している。

以 上